

遊びのまわりで

—— 二人の保育者の語り ——

片岡 知子
猿渡英理子

A おもちゃと子どもということで今日は話をしてみましょう。

B “おもちゃ”というところも既成のものという感じがしますが、子どもが遊んでいるところをみると、自然物と対している時が生き生きして楽しそうですね。

A 去年は池でたくさんおたまじゃくしが生まれたんですね。

B あれは楽しかったですよ。

A 毎日毎日飽きずに、砂場のカップやバケツをもって池のふちに集まりましたね。最初はやっぱりカップをつかってもなかなか捕まえられなかったけれど、毎日毎日ですから、すぐうまくなりました。

B そうですね。カップを使ってとれるようになるとう度は手ですくったり、それを手のひらで、あのゆるゆるの感触を楽しんだりもしました。大きな葉に木の枝をさして金魚すくいの網のようなものも作ってとりました。

A カップよりそういう網まで自分で作る方が数段おもしろいですよ。その子なりに工夫してしようこのようにする子もいたし、それに見つけたはっぱによっても違うんです。

はっぱというものすごいおもちゃですね。

B そうそう、私はすすぎの葉のような細長いはっぱでバツタが作れるんです。

A ええ、いなかで教わりました。高原で山ほど作りましたね。背中のあみ方が本物のバツタのようで、実際にリアルでしょ、私の友だちは本物だと思って捕まえようとしました。

B これも子どもたちに教えたいですね。そんなに複雑なあみ方ではないんです。昔の人はこれでかごも作ったんですね。

B 遊びながら覚えたことが、自然に生活の中に生きさせていったのです。それにしても、一枚の葉から立体的なものができあがってしまうのは不思議です。

A はっぱは染料にもなるんです。昔よくつゆ草やおしろい花で色をつけて遊んだでしょ。だいたいどんな葉や茎や花でも煮ると布が染められますよ。

B 毎年色水あそびをやるけれど、あれも絵の具やマジックやリボンを使うより、花や草でやりたいんです。

A 本当にそうですよ。でも幼稚園では子どもの数が多すぎて、どうしてもそういう教材に頼ってしまうんです。草や花を野原から摘んでくるところからあそびは始まるんですよ。

B 今日ヒメジオンを煮出して布を染めました。少し渋めの草色が染めあがって、二人で大喜びしました。

A ヒメジオンは、どうやら雑草らしいんです。草取りの季節には容赦なく刈られますから。でも染めるようになってからは、あの花に愛着がわいて、道端でみつけると「あった、あった」と喜んでしまうんです。

B そういうわけで家の草取りはなかなか進みません。

草木染というのは、草のいのちをもらうことなんです。ただ燃やしてしまうのではもったいないですよ。

A 自然のいのちをもらうのだったらとことん生かしたら本当にいいですね。大昔の人は狩をすると動物の肉や皮や内臓の袋まできっちり使いきっていたんです。

B そう、エイラ(＊)でしょ。ローラ(＊)もそうでしたね。

A 今でもそうですけど、家族が作ってくれたおもちゃはいいですね。私のクラスのおかあさんで、かまぼこの板を糸(こ)のこで切ってパズルを作るという方がいるんですよ。

B まあ、幸せですね。

A その子は工作がじょうずで、あるものを工夫していろいろな楽しいものを作っています。

B ききのう着物のはぎれをみつめて、お手玉を作りました。四枚はぎで作るのはなかなか難しく、何回も失

敗しました。もし、私たちの母がお手玉を教えてくださいなかつたら、この楽しみも知りませんでしたね。

A でも母のようにはうまくいかないですね。

B お手玉の大きさとか中のあずきの量とかによっても投げやすい、受けとめやすいがあるんです。お手玉はなかなか奥が深いんです。投げる時の加減で手首のスナップが要るし、リズム感もなくてはなりません。

A 唄にあわせて遊ぶのもあるでしょ。あれも、おばあちゃんからおかあさんそして子どもの代に口伝えて伝わってきているものですね。お手玉はお仕事会(＊)で作っていただきましたから、じゃんじゃん遊びたいと思います。

B でも、幼稚園だけじゃきつとうまくならないですよ。これをきっかけにお家でもおかあさんやおばあちゃんと遊んでほしいですね。昔は、うまくできると相手のきれいなお手玉を手に入れることができ、そのために必死で練習したんですよ。おはじき

やめんこと同じに。それがあの技につながっているのではないかと思います。競いあうことが。

A
そうですね。私が子どもの時はお手玉で競いあうということがなくて、家で遊んでいただけですから、他の人よりできるといっても、三つ操るのがやっとなのですからね。この夏は、せっせと練習して競いあいましよう。

B
ええ、一步リードされてますけどね。負けませんよ。

A
私、中村征夫さんという方が好きなんです。もうおじさんなんですけどね。こまやとんぼとりがうまいんです。本業は水中写真家なんですけど……。私はまあいとおばさんになりたいです。

B
年をとっても一度身についた技は生きてますからね。一生遊べる術をたくさん身につけておくと人生楽しいですね。おばあちゃんになってやるのがないかと寂しいですよ。

こまは幼稚園でもやりますね。私は年長のいちば

A
けん玉もおもしろいですね。プリンのカップと広告物にしてほしいですね。

けん玉もおもしろいですね。プリンのカップと広告



紙を丸めた玉で作ったことがあります。あれもひもの長さにはほどほどのよいところがあるんですよ。

B 隣でみていて、とても簡単にできて、それで十二分に楽しめて、いいなと思ってたんです。広告の紙は何にでもなっていていいおもちゃです。細く丸めてつくる剣がいちばん人気があつて毎日剣を作っています。

毎日たくさん作るのが大変だったから、ある日まとめて作って花びんにさしておいたんです。そうしたら、子どもは見向きもなかったんです。やはり、目の前で作ってもらう方が、わくわくして楽しいんですね。

A 細く丸めるために初めのところをなめたり、机の上ではすべるからじゅうたんのの上でするといこうつは、年長から伝えられます。

B おだんごづくり等もそうですね。

A おもちゃというのは作る過程を楽しむものなのだと思います。何回も失敗することも楽しみのひとつです。

B それに一生懸命作ったのをこわしてしまうのも遊びの重要な部分ですね。

A そのおもちゃを定められた遊び方で遊ぶのではなく、自分だけのおもしろい遊び方をみつけてほしいと思います。

B しばしばそれは大人の立場からみるとやっかいなこともあるけれど、それが楽しみで保育しているんです。子どもの発想は無限ですね。予想を裏切られるのは楽しいです。

※1 「大地の子エイラ」の主人公 ジーン・アウル 著

※2 「大草原の小さな家」の主人公 ローラ・インガルス・

ワイルダー 著

※3 大和郷幼稚園では、年に一度子どものお母さん方に、手作りのおもちゃを作っていたいている。

(大和郷幼稚園)